

令和4年度 第3回 藤沢市地域福祉計画推進委員会

議 事 要 旨

I. 開催概要

1. 日 時 2022年(令和4年)11月21日(月)9時30分～11時40分

2. 会 場 藤沢市役所 本庁舎7階 7-1・7-2

3. 出席者

(1) 委員=19名

・会場出席者

石渡 和実、松永 文和、奥田 吉昭、山口 燿子、椎野 幸一、
浅野 朝子、川原田 武、村上 尚、河原 寛子、松沢 邦芳

・オンライン出席者

鈴木 正貴、戸高 洋充、宮久 雪代、越智 明美、南部 久子、
川辺 克郎、森 もと江、江崎 康子、

・欠席者

木村 依子、市川 勤、末吉 育子、

(2) 事務局=9名

・福祉部：池田部長

・地域共生社会推進室：玉井室長、片山主幹、越川主幹、宮治室長補佐、
山中室長補佐、石田上級主査、佐藤主査、鎌田

4. 議 題

1. 開 会

2. 議 題

(1) 報告事項

①地域福祉に関するアンケート調査(調査票確定)

②支えあう地域づくり推進連絡会について

(2) 地域福祉に関する団体ヒアリングについて

①次期計画見直しに向けた団体ヒアリングの概要(報告)

②意見交換(所属している団体での地域活動や地域課題について)

(3) 藤沢市重層的支援体制整備事業実施計画の策定について(報告)

3. その他

4. 閉 会

II. 会議の概要（議事要旨）

1. 開 会

事務局の事務連絡後、石渡委員長より挨拶があり議事に入った。

2. 議 題

（1）報告事項

①地域福祉に関するアンケート調査について

≪資料1～資料4に基づいて事務局 鎌田より説明≫

→質疑なし

②支えあう地域づくり推進連絡会について

≪資料5に基づいて事務局 鎌田より説明≫

≪続いて、資料5補足①～⑥に基づき、支えあう地域づくり推進連絡会について 川原田・村上委員より説明≫

○石渡委員

資料5及び資料5補足①～⑥の説明に関して質問、意見等あるか。

○松沢委員

社会福祉協議会は様々な取組みをされており非常に驚いている。その中で動画による広報活動を図る取組みをされているが、DVD等の記録媒体ではなくYouTube等の動画プラットフォームを用いた方が若い世代、特に10代、20代の方々へ良いアピールになるのではないだろうか。

○村上委員

いただいたご意見はおっしゃるとおりである。説明が不足した部分があり、誤解を招いてしまったが、動画自体はホームページからYouTube等の動画プラットフォームにアクセスして視聴することが可能である。ネット環境のない場面においても動画視聴ができるようDVDを用意しているが、我々もインターネット上で自由に視聴できる方が若い世代へ効果があると思っているため、ご意見を参考に作成を進めていきたいと考えている。

○椎野委員

地域福祉活動計画も配布資料等についてもよくできていて素晴らしい。

しかし、13地区で福祉関連の活動をされている団体の方々でさえ、地域福祉活動計画を知らないケースがある。そのため、まずは一人一人にこの計画や活動を浸透させない限り、実行に移しても効果が薄くなるのではないかと考える。

○浅野委員

鶴沼地区では「つながろう 鶴沼！」という藤沢市の地域福祉をどのように進めていくかを話し合うケア会議を合計4回開催している。第1回目は民生委員のご紹介、第2回目～4回目ではみんなの縁側の方をはじめ、郵便局員、警察官、居宅事業所、新聞屋、薬剤師、宅配サービスの方々等、様々なご職業の方に来ていただき、主に鶴沼地区でできること、地域福祉をどのように進めていくかなどを話し合っている。私もこの計画を知っていただくことが1番大切であると認識しており、引き続き小さなところからつながりを作っていくことが大事だと考えている。

○椎野委員

皆が実行をしていないということではなく、どの地区も計画の体系図に沿って活動されていると思う。

しかし、自身が実践している地域福祉への取組みが計画で目指す基本目標のどの部分を指すのかがあまり見えてこない。また、関係者を含め住民一人一人への浸透はまだまだ浅く、住民同士で共に支えあうための取組みができているとも思えない。今後はぜひとも皆様にも努力をしていただきたい。

○河原委員

今までいくつもの地域団体に所属し、多くを経験してきたが、何かを伝えるために発信をしても簡単に皆さまに伝えることは難しいと感じている。本来は地域に関する意見や提案等について、住民の皆様の方から挙がってくるのが好ましいと思っている。

しかし、地域への想いや意見はあるが情報が行き届いていないため、どのように伝えればよいのかわからないという住民もたくさんいらっしゃる。例えば助成金制度にしても、その助成金に関する情報が住民に対してどこまで伝わっているのかわからないし、情報が伝わっていない住民の方は助成金の活用ができない。計画となるとどうしても大きな視点になり、小さな部分は見落としがちになる。

また、新規転入者が多い地域や地元の方々が多い地域など、地域間の差なども非常に大きい。そのため、地域への想いがある方々をはじめ、小さく活動をされている方々に対しても情報や計画を伝えていくために、自治会の方々の活動の中で情報を伝えていき、住民の方々の意見等、挙げられたものを集めていくことが非常に重要になると考えている。

○川原田委員

やはり住民にいかに周知をするかが1番の課題であると考えている。その中で、地区社会福祉協議会としては第2回連絡協議会において地域福祉活動計画について説明会を行い、皆様への周知をするという方法を取っていきたい。

続いて、私自身は湘南大庭の規模の多い自治会に加入しているため、情報や活動

の周知のために、合計15名の有志による見守りネットを立ち上げている。自治会での困りごとから話を進めていき、今度は社会福祉協議会の生活支援コーディネーターや、専門部会、本庁の方々、UR都市機構の方々にもご参加いただく。こういった活動をぜひ皆様の自治会においても展開し、まずは自ら動いてみて欲しい。

○松永委員

地域福祉計画に関わった方々は、計画についてよく理解されていると思うが、一般市民の方々は聞き馴染みのない方が多いのではないかと思う。先ほど椎野委員からお話があったが、計画を策定し共通の目標に向かって取組みを実践する、といった従来通りの地域福祉計画のプロセスを大前提にしないことが大事だと思う。地域福祉の諸々の活動や、普段の生活を通して発見した生活課題など、住民の方が地域の一員であるといった実感を持ちながらそれぞれ計画について興味関心をもっていった方が、より浸透していきやすいのではないかと考える。

また本来、地域福祉計画とは地域共生社会の実現に向けて、単年度ではなく中長期的なスパンで将来の地域福祉を共に描いていくことが目的になっていると考えている。そのため、改めて地域共生社会の実現に向けて本計画があるということを再確認する必要があると思う。

また地域共生社会に向けた取組みをすべての地区で共通項のもと進めれば、広がりはあると思うが、深まっていくかは疑問が残る。そのため、市民の方にお伝えする際は、地区によって工夫を凝らし、お互いを参考にしながら、その地区ならではの進め方をするのが良いと考える。地域共生社会とは相性や関係が悪い者同士がそれでもお互いを尊敬しあえるよう関係性を作っていく社会だと思っており、お互いが関わり合わない限り一步も進まない。多少なりともお互い迷惑を掛け合うことが当たり前となる社会でないと、地域共生社会の実現は難しいと考える。これからは、地域共生社会をどのように具体化していくかを、藤沢市の地区ごと、またそれぞれの所属されている中で改めて考えていくことが本計画を通して必要なことであると考える。

○奥田委員

私は藤沢市老人クラブ連合会の会長をしており、本アンケートを老人会の役員に対して回答してもらった。それとアンケートを含め「資料5 地域福祉活動計画説明資料」内においても老人会が触れられていない。老人会は老人福祉法に則った予算をいただいている団体であるにも関わらず、地域福祉活動計画では他の7団体が優先されており、団体リストにおいても「その他」の中に含まれてしまっている。社会福祉協議会としてどのような考えをお持ちなのかお聞かせ願いたい。

○村上委員

市が作成された資料には老人会という記載がないが、委員会においては老人会の方も参加していただいております、意見等もいただいております。

○事務局

いただいたご意見を参考に以後気を付ける。

(2) 地域福祉に関する団体ヒアリングについて

①次期計画見直しに向けた団体ヒアリングの概要（報告）

○戸高委員

団体ヒアリングに関しては、8つの法人により運営している藤沢障害福祉法人協議会において実施している。社会福祉協議会や社会福祉関係の法人が集まり公益事業として相談に関する事業を始めているが、コロナ感染症の拡大によって一時的に活動をストップしている。

しかし今後は、地域の中の専門施設として、住民の方々の相談を受けていくことが非常に重要であると考えている。

また、社会福祉施設には専門の知識をお持ちの方がいるため、施設内のみではなく地域とどのように連携していくかが大事になってくる。そういった点については非常に大きい役割を担っていると感じている。

コロナ禍においては、研修が思うように開催できず、情報共有が難しい点もあるが、それをコロナのせいにせず、どうやって地域連携をしていくかについて検討していく必要があると考えている。

○椎野委員

社会福祉協議会や個別へのヒアリングを行う際、どの地区においても推進委員会が同席することは可能であるか。同席すれば、その地域の状態もわかり、多少のフォローもできると思っている。

○事務局

現時点ではお答えできないため地区社会福祉協議会連絡協議会と相談をして検討する。

○宮久委員

先ほど川原田委員から説明があった、「支え合う地域づくり推進連絡会」のことを存じ上げていなかった。障がい者団体も委員に選出されているのかが気になっている。藤沢市障がい福祉団体連絡会は10団体で構成されているが、様々な障がい種別があり地域に限定せず藤沢市全域で活動しているため、なかなか地域の方々とのつながりをもつことができない。地域共生社会の実現に向け、障がい者も障がい児をもつご家族の方々も、この先、年齢が上がることを考えると地域とのつながりを持つ必要があると強く感じている。私も近隣の高齢化により、遠方の親戚よりも近所の他人の方が大事であると感じている。障がい者をどのように地域につなげるかという大きな課題を抱えながら、今後の本会議においてご報告できるよう努力していきたいと思う。

○南部委員

村岡地区福祉ボランティアセンター「ぬくもり」の委員として出席させていただいている。「ぬくもり」では連絡会といった活動が全体的にできていない。ヒアリングは過去2回していただいたことはあるが、できれば地区ボランティアセンターの複数の代表者を集めてヒアリングをしていただけるとありがたい。

○事務局

検討する。

○越智委員

藤沢市子ども会連絡協議会をやっているが、子ども会の登録数が非常に少なくなっている。約40年前は250団体程度の登録があったが、現在は36団体と減少している。また、各自治体の中にいくつの子ども会があるのかといったデータがなく、具体的な活動も行うことができているため、この場で報告ができず非常に残念に感じている。しかし、コロナ禍においても現在登録いただいている子ども会は活動していただいている。

また、我々もこういった状況の中でも、できることを模索したり、提案を行っており、研修等もコンスタントに開催したり、年度末においては、各子ども会の会長に集まっただき、他の子ども会の活動内容の事例発表も行っている。しかし、本当に大切なのは各自治会で子ども会を温かく見守っていただくことだと思っているため、まずは自治会の中での活動をしっかりと行い、子ども会の活動の制限を設けないで欲しいと考えている。

○森委員

私たち湘南大庭地区民生委員児童委員協議会でも、子育て支援として「ぴよぴよ広場」を立ち上げて委員30名全員で携わっている。コロナ禍の影響で会場が使えない時期があったが、再開した際には保護者の方から感謝の言葉を涙ながらにいただいたことがある。その保護者の方はご家庭の事情で大変悩まれていたそうだが、お子さまが笑顔で同年代のお友達と遊ぶことや、保護者の方もお母さんたちと交流をすることで、非常にうれしかったと話されていた。

そのためコロナ禍においても、少し人数を制限してでも続けていく必要があると感じ、また藤沢市内の各地域に1つずつある「地域子どもの家」のスタッフの方々をはじめ、色々なところからも情報等、日頃の子どもたちの様子を共有できれば良いと考えている。

○椎野委員

子ども会は思うように活動できていない一方で、地域では子どもを対象にイベントを頻繁に開催しており、子ども食堂についても、活動規模が大きくなってきている。そういった子ども会以外の場でも地域の子どもの実態を把握する機会があるため、関係機関や各主体を通してヒアリング等を実施すればよいと考える。

○石橋委員

私の居住団地においても約35年前には子供が約200人いた。子ども会や市の子ども連合会にも入っていたが、20年ほど経過すると当時の子どもが育ち、8年ほど前には0歳～小学校6年生の人口が6人にまで減少した。共働きの影響もあり、役員の担い手が見つからないため子ども会は消滅していった。

現在はコロナ感染症の影響で自粛しているが、青空レクリエーションや教育文化の集いを毎年行っている。

また、自治会役員をやりたくないといった方が多いが、対策として役員自体が自治会の行事を楽しく実行すれば周りも興味を持ってくれるのではないかと考える。

○浅野委員

民生委員として長く活動を行ってきた中で守秘義務について懸念している。活動

を行う上では守らなければいけないことだが、守秘義務があるため会議や活動が止まってしまうこともある。些細なことや小さな事項においても、ご本人の了解を得ながら活動を進めてきた。国民として義務に従うべきであるが、もう少し柔軟に考えていく必要があるのではないかと考えている。

○江崎委員

公募委員として参加しているため、団体ヒアリングについての意見はない。私が所属している地域の町内会には、立候補をして会長になった方がいらっしゃらず、組長が集まってじゃんけんをして、負けた人が会長になるというようなやり方で活動を続けている状況である。

以前、高齢の女性がある書類を破棄する際に、近所の他の高齢女性の方が本当に破棄しても良いものか確認をさせてくれ、とお願いしている場面があったと伺ったことがある。これはご自身の判断に自信が持てなかった方を近所の方が支えるといった社会福祉協議会が行う日常生活自立支援事業の一つであると思った。こういった小さな支え合いで高齢化が進む地域でも生活が成り立っていると思っている。

その一方で亡くなられた方の住宅が空家として増加することや、新しく居住された方が自治会に加入されないなど、地域の弱体化については今後も考えていかなければいけないと思っている。

(3) 藤沢市重層的支援体制整備事業実施計画の策定について

《資料8に基づいて事務局 佐藤より説明》

→質疑なし

3. その他

特になし

・次回（第4回）：令和5年3月24日（金）9時30分より開催予定

4. 閉会

以 上